



北京事務所

内モンゴル自治区フフホト市で JET 意見交換会を実施しました

クリア北京事務所は 2024 年 8 月 21 日から 24 日にかけて、内モンゴル自治区フフホト市で第 20 回日中地域間交流推進セミナーを開催しました（セミナーの詳細は、本誌 12 月号現場レポートにて掲載予定です）。

このセミナーにあわせ、22 日に、各省から派遣された JET 経験者ら合計 18 人が参加する JET 意見交換会を実施しました。「JET を経験して感じる、日中地域間交流を促進するために重要なこと」をテーマに、JET 経験者がそれぞれの経験をもとに意見交換をしました。

JET 経験者からは、「JET を通して築いた人間関係が今でも続いている。赴任自治体との友情は人生の宝」「今思い出だけで胸が熱くなる思い出」「JET は、人生の中で最も大切な期間だった」「当時の、さまざまな人との交流の経験は一生の財産」「赴任以来ずっと国際交流の仕事をしているが、JET の経験がとても生かされている」「対面での交流によって相手に対するイメージと実際のギャップを埋めることができ、相互理解が深まった」などの言葉がありました。

クリア北京事務所では、今後も中国各地における JET プログラム（語学指導等を行う外国青年招致事業）の周知および JET 経験者とのネットワーク強化のための取り組みを実施してまいります。



集合写真



意見交換会の様子



ニューヨーク事務所

来場者 10 万人の「Anime NYC」へブース出展しました！

クリアニューヨーク事務所は、過去最大となる 10 万人を超えるアニメ・漫画ファンが来場した「Anime NYC」に今年で 5 回目のブース出展をしました。本イベントは 2024 年 8 月 23 日から 25 日にかけて、ニューヨーク市のジャビッツ・コンベンションセンターにおいて開催された東海岸最大級のアニメ・漫画の祭典です。

日本のアニメ聖地巡礼マップに加え、各自治体のアニメ・漫画に関連する観光パンフレットやポスターを用いて PR しました。また、日本政府観光局（JNTO）と JETA（元 JET 参加者の会）NY と並びでブース出展し、日米観光交流年を踏まえた効果的な PR を行うことができました。

また JETAANY は来場者 200 人を対象に JET プログラムの PR のため、日本での暮らしや仕事について紹介しました。

訪日旅行を計画中の来場者が多く、「来月訪日を予定しているが、訪問先に好きなアニメの聖地を加えたい」「来年ハネムーンで訪日する際、お互いの好きな漫画の聖地に行ってみよう」といった声が聞かれました。「昨年、漫画作者の出身地にあるキャラクターの銅像をほぼ全て巡ったが、コンプリートできなかったので今年リベンジする予定だ」という話もあり、アニメや漫画ファンの作品や作者に対する熱量を感じました。

全米のみならず、カナダや南米からのお客様も訪れる本イベントに出展することで、日本の魅力を幅広く PR する機会となりました。クリアニューヨーク事務所では、今後も日本の自治体のご要望に応じて、地域の魅力を発信してまいります。



JETAANY パネルディスカッション



コスプレした来場者とクリアニューヨーク事務所職員



パリ事務所

欧州最大級のインテリア見本市がパリで開催

2024年9月5日から9日にかけて、欧州最大級のインテリア関連見本市「Maison & Objet（メゾン・エ・オブジェ）」がパリ郊外で開催されました。本イベントは毎年2回、同会場で行われ、会期中にはブース展示、テーマ別セッション、ワークショップなどのイベントが実施されます。30周年を迎えた今回は「Terra Cosmos（大地と宇宙）」というテーマのもと、147カ国から約2,300組の企業・団体が参加しました。

会場は「メゾン(家)」と「オブジェ(もの)」の2つに分けられ、前者では家具、工芸品、電化製品、後者にはファッションアクセサリ、キッチン用品、雑貨などの展示が行われました。

日本国内からは29組の事業者・団体が参加し、欧州に拠点を置く日系企業も数多く出展していました。展示内容も焼き物や織物といった伝統工芸品から最新の文房具まで幅広く、出展者は世界各国から訪れるバイヤーなどに向けて積極的にPRを行っていました。

クレアパリ事務所では、自治体への活動支援の一環として、イベントでのPR活動支援も行っています。2025年1月に開催される次回の「Maison & Objet」をはじめ、フランスでの展示会出展の際には、活用をご検討ください。



7つのホールからなる広大な会場



工芸のエリア。ブースのサイズも多様で、小さな企業でも参加しやすい



ソウル事務所

クレアソウル新事務所で業務開始！

クレアソウル事務所は2024年10月14日に事務所を移転し、光化門（カンファムン）から乙支路（ウルチロ）というエリアに引っ越ししました。

引っ越しに向けて倉庫を整理していた際、1993年設立当時の決裁資料やソウル事務所お披露目会の写真、過去の事務所移転検討資料などを見つけ、ソウル事務所30年の歴史を感じていました。

新しい事務所のある乙支路エリアは百貨店や飲食店、ホテルが多く建ち並ぶ商業街で、観光客も多くとても活気があります。新事務所から5分ほど歩くと日本人にも人気の観光地、明洞（ミョンドン）に行くことができます。

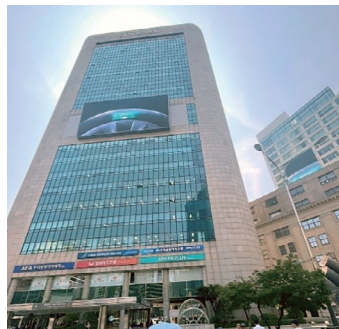
今は引っ越しをしたばかりで少しパタパタしていますが、新しい地でクレアソウル事務所の歴史が作られていくのを楽しみに事務所業務を行おうと思います。

今度ともクレアソウル事務所をよろしくお願いたします！

クレアソウル事務所新住所：

ソウル市中区乙支路50 乙支韓国ビル 3階

最寄り駅：地下鉄2号線 乙支路入口駅（5番6番出口）



乙支韓国ビル



新事務所入り口



シドニー事務所

「ニュージーランド地方自治体協会年次会合」で地方行政の動向把握とネットワーク強化

2024年8月21日から23日まで、ニュージーランド（NZ）の地方自治体の首長や議員が一堂に会する「NZ 地方自治体協会2024年次会合」が首都ウェリントン市で開催されました。

開会にあたり、クリストファー・ラクソン NZ 首相は、自治体の基本業務への予算集中と財政の効率化を求めましたが、自治体からは効率のみを考慮した予算措置では人口維持や優秀な人材の呼び込みには不十分との反論が寄せられました。

「ローカリズム（地域主義）」をテーマとした今年の会合では、老朽化が進む上下水道などのインフラ整備の必要性や、コスト増加に伴う資金不足といった自治体が直面する課題が議論され、中央政府との連携の重要性が強調されました。

クレアシドニー事務所ブースでは、NZと姉妹都市関係にある日本の地方自治体の紹介のほか、12月初旬に開催を予定している海外自治体幹部交流協力セミナーを周知し、ブース来訪者からは、クレアシドニー事務所の活動がNZと日本の懸け橋となっているとのコメントが寄せられました。また、ブースでは、現地の地方自治体関係者との意見交換を通じ、地方行政の動向の把握やネットワーク強化を図りました。



基調講演「ローカリズム（地域主義）を現実」の様子



登壇するラクソン首相



シンガポール事務所

ベトナムとタイにおいて自治体など職員に対する研修を実施しました！

2024年8月14日から同月24日（国内研修3日間含む）にかけて、ベトナム（ハノイ）およびタイ（バンコク）において、「自治体の海外戦略～活力あるアジアとの地域間交流促進～」と題して、全国市町村国際文化研修所（JIAM）との共催により、視察研修を実施しました。

本研修には、全国の自治体などから9人の職員が参加しました。ベトナム・タイ両国の日本大使館、日本政府観光局（JNTO）、日本貿易振興機構（JETRO）などの日系機関や現地の日系商品を扱うスーパーマーケットの視察を通じて、訪日観光振興や販路開拓に向けた取り組みについて学ぶことで、自身の自治体の強みを改めて考えさせられる機会となりました。

また、現地の大学生、JETプログラム終了者との意見交換や繁華街での街頭アンケートを行い、実際に面と向かって対話しないと得られないような当地の文化や風習にまつわる情報に触れ、本研修の趣旨である「交流」の意義を大いに実感できる研修となりました。

官民間わず幅広い分野において、ベトナムおよびタイでの取り組みや、日本とそれらの国々の違いについて知見を深めることができました。



ハノイ市人民委員会でのブリーフィング



タイの大学生と意見交換



ロンドン事務所

自治体訪問研修でリバプールを訪問しました！

2024年8月下旬に、英国北西部の港町であるリバプールを訪問しました。世界的ロックバンドであるビートルズやアルバート・ドックをはじめとする美しい街並みなどが有名な観光都市として知られるリバプールですが、18世紀には北アメリカ・西アフリカを結ぶ大西洋三角貿易の拠点として経済の中心的役割を果たしていました。このことは同時に、奴隷貿易によって発展したという、負の歴史を持つことも意味しています。

研修1日目には、ロードメイヤーであるリチャード・ケンプ氏および職員に案内いただき、市庁舎や市のシンボルである「ライバー・バード」の銅像があるロイヤル・リバー・ビルディング、アルバート・ドックなどの施設を視察しました。リチャード氏が「リバプールは奴隷貿易とともに栄えてきた。このような背景があることを隠すのではなく、後世にしっかりと伝えていくことが重要である」と話していたのが印象的でした。

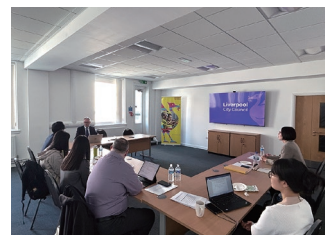
レンガ倉庫として貿易を支えてきたアルバート・ドック周辺はレストランやショッピングセンターへと再開発が進められていますが、駐車場を地下に設置することにより、自生する緑を損なわずに景観を守り、人々の憩いの場を確保しており、市民生活を豊かに保つよう努めながら再開発を進めている様子が見られました。

また、研修2日目には、多文化共生や再開発を含む4つの事業の担当者から市の取り組みについて話を伺いました。リバプール市は人口の50%を英国外からの移民が占めており、彼らの生活や教育、就職について1つの部署のみでなく市役所全体がチームとなって支援しているとのことで、市の多文化共生の促進に対する積極的な姿勢を感じました。

これからも自治体訪問研修を通して、英国と日本の相違点から自治体のあるべき姿を学んでいきたいと思います。



ロードメイヤーから再開発について説明を受ける様子



研修受講の様子



多文化共生課

「災害時に外国人支援に従事する関係者向けの研修」を実施しました！

近年、全国各地で水害や地震など大きな自然災害が頻発し、深刻な被害が生じています。

「災害時に外国人支援に従事する関係者向け研修」は、激化する災害に備え、関係者のスキルアップ、広域支援に必要な顔の見える関係づくりやネットワーク構築を目的とした研修です。2024年度はオンライン研修（3回）と現地集合型研修（1回）を実施しました。

現地集合型研修では、「令和6年能登半島地震」での対応に関する講義や「防災・減災のための多言語支援の手引き2023」を活用したワークショップが行われ、参加者同士で、地域の取り組みや課題について活発な意見交換が行われました。

クリア多文化共生部では、上記手引きのほか、「多言語表示シート」「多言語指差しボード」など、災害時だけでなく平時の防災訓練などにも役立つツールをホームページに掲載しております。ぜひご活用ください。



現地集合型研修の様子



多言語情報など共通ツールはこちら

JETプログラム事業部

JET参加者の情報源「CLAIRニュース」がさらに見やすくなりました！

JETプログラム事業部では、毎月1回、JET参加者（JETプログラム（語学指導等を行う外国青年招致事業）の参加者）が知るべき大切な情報や、JET関連の研修、助成制度などの最新情報を掲載する「CLAIRニュース」を作成し、各参加者へ直接メールでお送りするとともに、ウェブサイトに掲載しております。

このたび、「CLAIRニュース」のリニューアルを実施いたしました。

今回のリニューアルでは、参加者の皆様により分かりやすく情報をお届けするために、文字サイズの拡大や強調文字の使用、セクションごとに表示を折りたためる機能の追加などを行いました。英語と日本語の2カ国語で表記しているため、参加者と任用団体のコミュニケーションのツールとしても活用できます。

また、当事業部では、他にも年1回発行しているJET参加者用ハンドブック（GIH）で情報提供を行っております。CLAIRニュースとハンドブックのいずれにも、日本での生活や職務に欠かせない重要な情報を掲載しております。

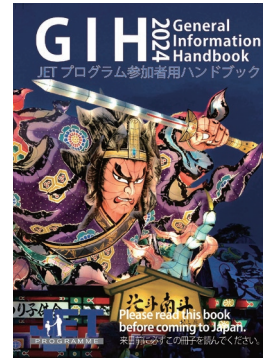
今後とも、参加者の皆様にさまざまな情報をお伝えできるように努めてまいります。



CLAIRニュースはここからご覧ください



リニューアルしたCLAIRニュース



JET参加者用ハンドブック（GIH）

経済交流課

プロモーションアドバイザーを派遣しました！

クレアでは、自治体の海外プロモーションを支援するため、専門的知見、ノウハウ、経験をもつ専門家「プロモーションアドバイザー（PA）」を派遣する制度を実施しています。

ここでは、今年度の派遣実績として、山口県萩市への派遣事例をご紹介します。萩市では多くの観光素材の利活用および官民挙げてのインバウンド受け入れ態勢の充実を図っています。株式会社アーチ・ヒーロー北海道 代表取締役 高橋幸博氏をPAとして派遣し、専門的な見地から助言とセミナーをしていただきました。

萩市観光協会職員の案内の下、松陰神社や、東光寺、萩城跡などの現地視察をし、インバウンド（訪日客）の方が魅力を感じるポイントや課題など、PAの所感を伺い、助言をいただきました。また、「外国人観光客の心を掴む最新事例から学ぶ萩市の未来を拓くインバウンド観光戦略セミナー」を開催し、多くの市内事業者の方が参加されました。今後の官民一体でのインバウンド誘致に向けて有意義な派遣となりました。

【お問い合わせ】経済交流課

Tel : 03-5213-1726 Mail : keishin@clair.or.jp



市内視察（松陰神社の案内板を確認するPA）



萩・明倫学舎内でのセミナー

交流親善課

姉妹（友好）都市提携希望情報のご紹介！

クレアでは、姉妹（友好）都市提携を希望している自治体の情報をホームページにて紹介しています。新たな姉妹（友好）都市の提携を検討される際に、ぜひご覧ください。

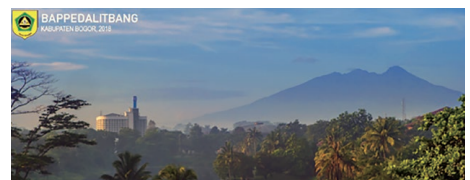
○ボゴール県（インドネシア）

ボゴール県は、インドネシアの首都ジャカルタのベッドタウンであり、官民連携を通じたイノベーションや技術開発事業、スマートシティ分野で先進的な取り組みを実施している自治体です。

○フェティエ市（トルコ）

フェティエ市は地中海の素晴らしい景観、豊かな歴史、自然遺産があることで有名な都市です。都市インフラの強化、文化遺産の保護、持続可能な開発プロジェクトに力を入れている自治体です。

詳しくは、クレアホームページ「姉妹（友好）提携情報」をご覧ください。また、海外の自治体向けに日本の自治体PRも掲載しています。掲載希望がありましたら、交流親善課（Tel : 03-5213-1723 Mail : shimai@clair.or.jp）までお問い合わせください。



ボゴール県の様子



詳細はこちら



フェティエ市の様子